

【発展問題】

⑤ 次の史料を読んで、空欄（ア）～（オ）を適語で補い、設問に答えよ。（配点30点）

- A 其の国、本また男子を以て王となし、住まること七、八十年。倭国乱れ、相攻伐すること歴年、乃ち共に一女子を立てて王となす。名づけて₁卑弥呼と曰ふ。（ア）に事え、能く衆を惑わす。年已に長大なるも、夫壻なく、男弟あり、佐けて国を治む。……_a景初二年六月、倭の女王、大夫難升米等を遣し₂郡に詣り₃天子に詣りて朝献せんことを求む。太守劉夏、吏を遣し、將って送りて京都に詣らしむ。……卑弥呼以て死す。大いに冢を作る。径百余歩、徇葬する者、奴婢百余人。
- B （イ）死して弟₄武立つ。自ら使持節都督倭・百濟・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓七国諸軍事（ウ）倭国王と称す。_b順帝の昇明二年、使を遣して上表して曰く、「封国は偏遠にして藩を外に作す。昔より祖禰躬ら甲冑を擐き、山川を跋涉して寧処に違あらず。東は毛人を征すること五十五国、西は衆夷を服すること六十六国、渡りて海北を平ぐること九十五国」と。
- C 建武中元二年、倭の（エ）国、貢を奉じて朝賀す。使人自ら大夫と称す。倭国の極南界なり。光武、賜ふに₅印綬を以てす。_c安帝の永初元年、倭の国王帥升等、生口百六十人を献じ、請見を願ふ。₆桓靈の間、倭国大いに乱れ、更相攻伐して歴年主なし。
- D 夫れ（オ）海中に倭人有り、分れて百余国となる。歳時を以て来り献見すと云ふ。
- E 百残・新羅は旧是れ属民なり。由来朝貢す。而るに倭、_d辛卯の年よりこのかた、海を渡りて、百残・□□・□羅を破り、以て臣民と為す。六年丙申を以て、₇王躬ら水軍を率ゐ、残国を討科す。
- F 〔表〕₈泰和四年□月十六日、丙午正陽、百練釧七支刀を造る。□百兵を辟く。供供たる侯王を宜くす。□□□□作。
- 〔裏〕先世以来、未だ此の刀有らず。百濟国世臣、奇生聖音、故に倭王旨の為に造り、₉後世に伝囿せんとす。

〔設問〕

(1) 下線部1の「卑弥呼」が対立していた国を次から選び、番号で答えよ。

- 1 狗奴国 2 伊都国 3 投馬国 4 末盧国

(2) 下線部2の「郡」の名称を答えよ。

(3) 下線部3の結果、卑弥呼が得た称号を答えよ。

(4) Aの史料の編者を次から選び、番号で答えよ。

- 1 范曄 2 陳寿 3 沈約 4 班固

(5) 下線部4の「武」と最も関係のない史料を次から選び、番号で答えよ。

1 辛亥年七月中記す。乎獲居臣、上祖の名は意富比埤、其の児多加利足尼、其の児名は弓已加利獲居、其の児名は多加披次獲居、其の児名は多沙鬼獲居、其の児名は半弓比、

2 其の児名は加差披余、其の児名は乎獲居臣、世々杖刀人の首と為り、奉事し来り今に至る。獲加多支鹵大王の寺、斯鬼宮に在る時、吾、天下を左治し、此の百練の利刀を作らしめ、吾が奉事せる根原を記す也。

3 癸未年八月日十、大王の年、男弟王、意柴沙加宮に在せし時、斯麻、長寿を念じ、開中費直穢人・今州利二人等を遣はし、白上同二百旱を取り、此の竟を作る。

4 天下治めず獲□□□鹵大王の世、奉□典曹人、名は無□弓、八月中、大いなる鑄釜と、并せて四尺の廷刀とを用ゐ、八十たび練り、六十たび拮じたる三寸上好の□刀なり。

(6) 下線部5の「印綬」と思われるものが後年発見された。その島名を答えよ。

(7) 下線部6は何世紀のいつ頃のことか、「1世紀前半」のような形で答えよ。

(8) 下線部7の「王」の名を答えよ。

(9) 下線部8と同じ世紀の年代は波線部a～dのうちどれか。

(10) Fの史料の銘文をもつ遺物が蔵される神社を次から選び、番号で答えよ。

- 1 三重県伊勢神宮 2 和歌山県隅田八幡神社
3 奈良県大神神社 4 奈良県石上神宮